中間報告書

令和　８年　９月　　日現在

１　事 業 名

子育て家庭の「暮らしの余白」を生み出す地域密着型 家事サポート事業
－ よりみち家事 モニターモデル事業 －

２　実施期間　　令和　８年　５月　１日～令和　９年　３月　３１日

３　事業内容

① 事業の目的・概要

子育て家庭の家事負担を軽減し「心の余裕」を生むこと、そして地域の女性を育成し、新しい働き方と支え合いの循環をつくることを目的とする。

② 事業の流れ・進捗状況等

＜実施したこと＞

● 家事支援実施体制の整備

家庭内で実施する支援であることから、安全管理を重視し、モニター実施前の体制整備を進めた。

・家事支援マニュアルの作成
・スタッフ向け研修資料・動画等の準備
・スタッフとの契約書等の整備
・利用家庭への交付書面等の整備
・支援範囲や対応方法の整理
・個人情報、安全管理、トラブル発生時の対応等の整理

また、家事支援を実践している「暮らしサポートこもれび」から、実際の支援状況や運営上の課題等について助言を受け、事業設計やマニュアル等へ反映した。

● 「暮らしを豊かにフォーラム」の開催

家事支援の実践団体、既存サービスの提供団体、行政・関係機関、地域住民等が参加し、家事支援の現状や必要性、今後の子育て支援のあり方について意見交換を行った。

少人数での開催としたことで、それぞれの立場から地域の現状や既存サービスで対応できること・できないことについて具体的に共有することができ、今後のモニター事業で検証すべき課題を整理する機会となった。

● スタッフ募集

家事支援スタッフの募集を行い、個別面談を行った。

＜今後、実施すること＞

● スタッフ研修

家事支援スタッフへ、マニュアルや研修資料を活用した研修を実施する。

● モニター家庭の募集・支援実施

モニター家庭を募集し、事前面談を行った上でスタッフとのマッチングを行い、家事支援を実施する。

モニター事業を通して、

・どのような世帯に家事支援ニーズがあるか
・具体的にどのような家事に負担を感じているか
・既存制度やサービスでは対応しにくいニーズは何か
・利用する際にどのような心理的・経済的ハードルがあるか

・利用しやすい支援内容、頻度、時間等は何か
・支援する側に必要な研修、安全管理、マッチング方法は何か等を検証する。

● 情報発信

モニター家庭の感想や実践を通して見えてきたこと等を発信し、家事支援の必要性への理解を広げるとともに、「家事を頼ってもよい」という意識の醸成を図る。

● 成果報告・課題共有フォーラム

モニター事業終了後の２月頃に、行政、民間団体、子育て支援・福祉関係者、地域住民等を対象としたフォーラムを開催する。
モニター実践から得られた成果や課題を共有し、制度の対象となる前段階も含めた予防的な生活支援の必要性や、地域で継続可能な家事支援のあり方について意見交換を行う。

③　これまでの成果･効果、今年度事業終了後の成果･効果の見込み

これまでの準備を通して、家事支援は単に家事を代行するサービスではなく、他者の家庭に入って生活を支える事業であることから、安全管理や個人情報保護、支援範囲の明確化、スタッフ育成等を事前に十分整理する必要性が明確になった。
また、フォーラムでの意見交換から、浅口エリアでは子育て世帯による家事支援サービスの利用が十分に広がっていない一方、他地域では一定の利用ニーズがあることを確認した。
利用につながりにくい背景については今後さらに検証する必要があるが、「近所の目が気になる」「利用していることを知られたくない」「家事支援を利用するとお金に余裕があると思われるのではないか」といった、地域における心理的なハードルの存在も示唆された。
今年度後半は、モニター家庭への実践を通して、こうした仮説を検証するとともに、実際の利用者・スタッフ双方の声を収集する。
事業終了時には、浅口エリアにおける家事支援のニーズ、既存制度では届きにくい層、利用へのハードル、必要な支援内容、スタッフ育成・安全管理等について整理し、今後の家事支援モデルを検討するための基礎資料とする。
また、実践結果を行政・民間団体・地域関係者等と共有することで、地域全体で子育て世帯の暮らしを支える仕組みについて考える機会をつくる。

④ 課題等

当初予定よりも、マニュアルや契約書、利用者への交付書面等の作成、安全管理体制の整理など、モニター事業を安全に実施するための準備に時間を要した。
また、フォーラムについても、実践者との日程調整等に時間を要したことに加え、事前の継続的な情報発信が十分にできなかったことから、開催目的や家事支援の必要性を広く周知することが難しく、小規模での開催となった。
一方、少人数での意見交換により、地域の現状や既存サービスの状況、家事支援を利用する際の心理的なハードル等について具体的な意見を共有することができた。
今後は、モニター事業の実践を優先し、利用者・スタッフ双方から得られる声やデータを蓄積する。また、その実践過程や利用者の声を活用した情報発信を行うことで、家事支援の必要性への理解を広げ、利用への心理的なハードルを下げることにも取り組む。
最終的には、モニター実践から得られた成果・課題をフォーラムで関係者と共有し、「支援サービスをつくる」だけでなく、「必要なときに家事を頼ってもよいと思える地域の環境をつくる」ことにつなげていく。

4　参考事項・資料

収支精算書見込又は収支（変更）予算書※

（収支（変更）予算書※は補助金交付申請書または補助事業変更承認申請書に添付した収支（変更）予算書のこと）

写真（データでも提出すること）

当日資料

アンケート結果　他

5　次年度以後の事業展開

次年度の事業展開	事業展開の方向性 （以下のチェック欄のいずれかに「✓」を記入してください。）
	☑ 提案団体の自主事業として収益を得て継続・拡大していくことを目指す。 ☐ 地域づくり事業として事業を継続しつつ、次々年度の自主事業化へ備える。 ☐ その他（　　）
	中期的な目標を実現させるための具体的な事業の内容
	子育て世帯を対象に、掃除・片付け等の日常的な家事をサポートする家事支援サービスを実施する。地域で支援スタッフを募集・育成し、利用者の困りごとや希望を事前に聞き取った上で、適切なスタッフをマッチングする仕組みを整える。 また、利用者の声や実際の支援事例を継続的に発信し、家事支援を利用することへの心理的なハードルを下げるとともに、地域における家事支援の必要性への理解を広げる。 さらに、行政や既存の支援機関、民間事業者等と連携し、それぞれのサービスで対応できることを整理しながら、必要な支援につなぐ体制や、利用者が無理なく利用できる料金・費用負担のあり方について検討し、継続可能な家事支援の仕組みを構築していく。